JSPO フェアプレイニュース
2021年3月1日発行
Vol.127

フェアプレイインタビュー
【馬術】
乗馬クラブクレイン所属
北島隆三選手

プロフィール
生年月日：1985年10月23日
出身地：兵庫県
2016年 リオデジャネイロ五輪 出場

# 言葉よりも心で通じ合う

馬術競技は五輪種目で唯一、動物とともに出場する競技です。リオ五輪の代表でもある北島隆三選手の専門種目は総合馬術。決められた演技を正確に行う馬場馬術、自然の中の様々な障害物を飛び越えて疾走するクロスカントリー、アリーナ内の障害物を飛び越える障害馬術の3種目を同一人馬で行う最もハードな種目です。

「小さい頃から動物が好きで、小学校5年生の時に初めて乗馬クラブで馬に乗り、即入会を決めました。当時の『もっとうまくなりたい』という感情が、約25年経った今も変わらず続いています」

## 馬と信頼関係を築く

馬術競技ではよく〝人馬一体〟という言葉が使われます。人と馬がまるで一体かのように巧みに乗りこなすことを意味します。馬とは言葉でのやり取りはできませんが、どんな気持ちでいるか、常に馬の立場で考えていると、段々と気持ちが分かる。すると馬も自分の気持ちを分かってくれる。北島選手もそうやって信頼関係を築きながら人馬一体を目指します。

「馬は記憶の動物と言われるくらい昔のことも覚えていて、以前に失敗した障害物をその後も嫌がったりする。そういう時は高さを下げてみたり、自分が飛ぶ真似をして『大丈夫だよ』と不安を取り除いてあげます。ただ、時には勇気を出せるようにムチを使うこともあります。馬が自分の気持ちを理解してくれて、障害物をクリアした時の喜びは言い表せません」

一方で苦い経験もあります。リオ五輪ではクロスカントリーで馬が擦り傷をつくってしまいました。大きなケガではありませんでしたが、馬に無理をさせるわけにいかず、棄権を決断しました。

「自分がもっと上手に乗れていれば擦り傷を負わせることもなかったはず。頑張ってくれた馬に申し訳ない気持ちでした」

## 終わりがないから面白い

馬術競技は、男女や年齢別の区分がないことも特徴です。体力や筋力だけではなく、いかに人馬一体になれるかがより重要なポイントです。

「馬術は、上達を目指す上で、自分さえ諦めなければ〝これで終わり〟というものがない。だからこそ面白いんです。今日より明日、明日より明後日と、少しずつでも自分も馬も良くなりたいから、きついことだって頑張れる。競技の結果以外にも大切なことがあることを、馬術を通じて学びました」

北島選手は自らの経験から、子供たちにエールを送ります。

「僕は夢中になれるものと出会えたことで根気強く、前向きになれました。もっとうまくなりたいから、何事も諦めない。皆さんもぜひ熱くなれる、夢中になれるものを見つけてください」

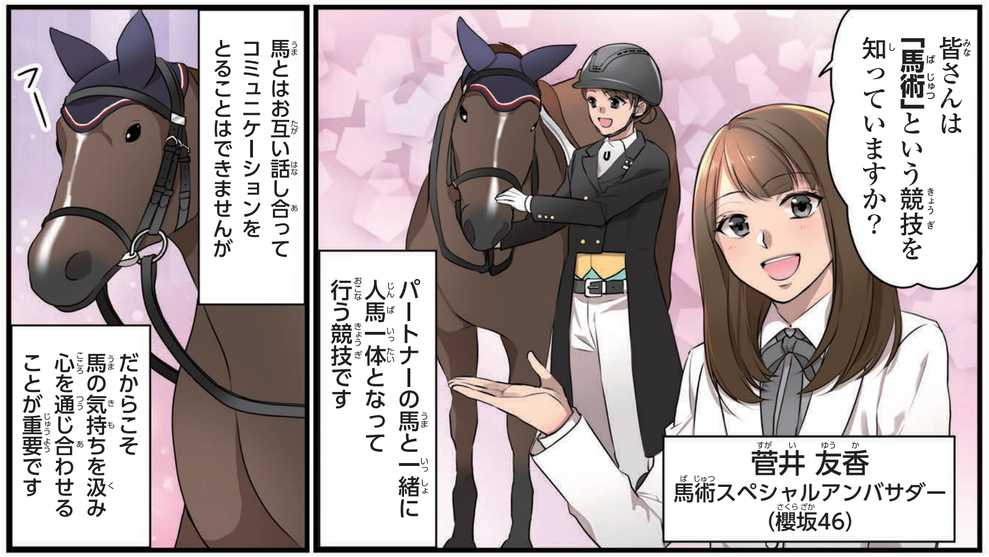
北島選手と愛馬の終わりのない挑戦はこれからも続いていきます。

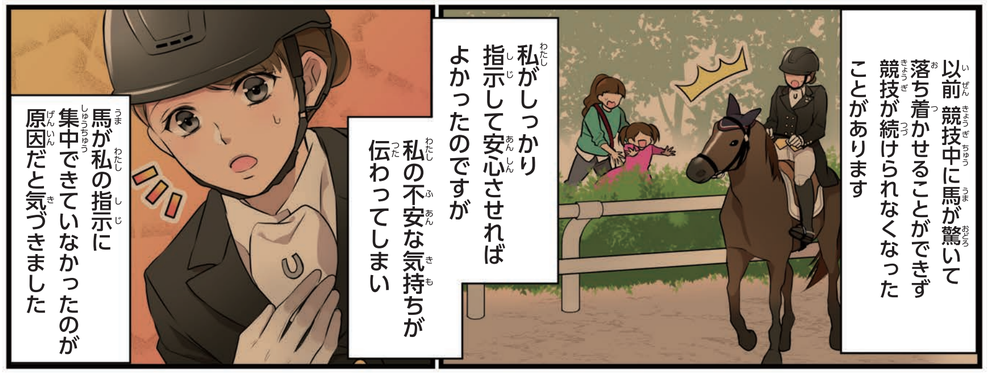
© 日本馬術連盟

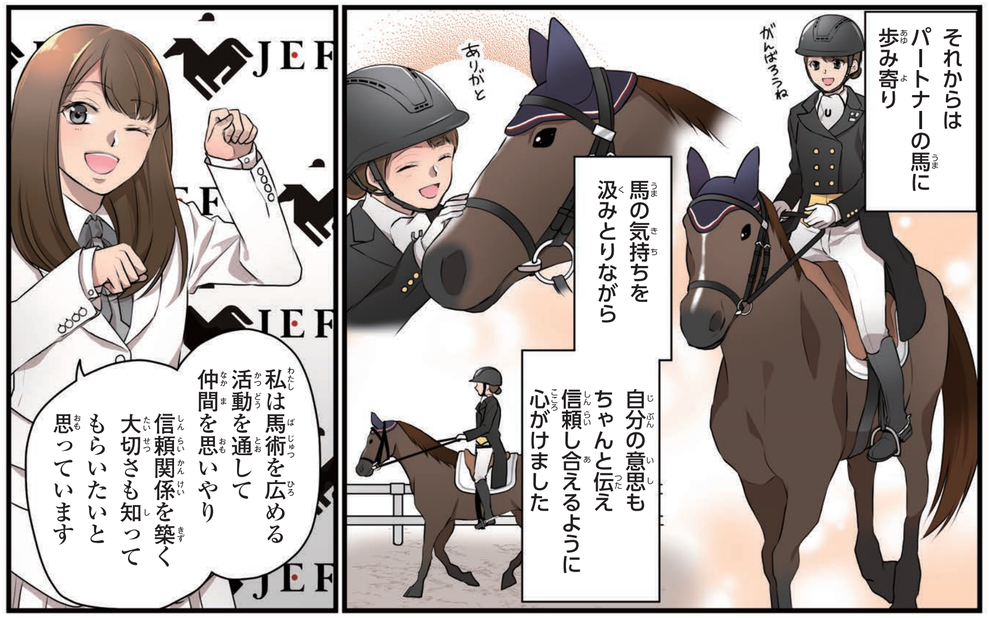
FAIRPLAY STORY フェアプレイストーリー

# 人馬一体の信頼関係！

馬術
日本馬術連盟スペシャルアンバサダー
菅井友香（櫻坂46）




JSPOフェアプレイスクール2020実施校募集中
（元）トップアスリートの授業を体験できます！皆様のご応募をお待ちしております。
ウェブで JSPO フェアプレー 検索
※詳細はフェアプレイスクール応募要項をご覧ください。

スポーツくじ toto BIG
フェアプレイニュース 第127号
2021年3月1日発行
（次回は2021年3月22日発行の予定です）
企画：JSPO（公益財団法人 日本スポーツ協会）
http://www.japan-sports.or.jp/
JSPO Japan Sport Association